

テーブルクリニック プログラム

I. 午前の部 10:00～11:30

【会場：メロディールーム セレナーデ】

A-1. 今さら聞けないCO₂レーザーの高出力とLLLT効果の両立と最新使用方法

大洗中島歯科医院（東西茨城歯科医師会）中島京樹

II. 午後の部 14:00～15:30

【東京歯科大の窓】

【会場：グリーンルーム NORTH】

P-1. 安全な歯科診療のために、画像診断時に有用なポイント

東京歯科大学 歯科放射線学講座 教授 後藤多津子

【会場：メロディールーム セレナーデ】

P-2. がん治療と口腔管理

公益社団法人地域医療振興協会 石岡第一病院 口腔外科（土浦石岡歯科医師会）

筑波大学臨床教授 萩原敏之

A-1

今さら聞けない CO₂ レーザーの高出力と LLLT 効果の両立と最新使用方法

大洗中島歯科医院（東西茨城歯科医師会）
中島京樹

目的：メラニン色素沈着組織の蒸散除去，小帯切除，膿瘍切開，歯周病治療などへの応用には，Nd:YAG レーザー，Er:YAG レーザー，Diode レーザー，CO₂ レーザーのいずれも可能であり，その症例報告がなされている．CO₂ レーザーについては通常，施術部位に対して表面から走査法により，均一に蒸散する方法などが報告されている．この際，蒸散するスポットのサイズ，レーザーパルスのピーク出力あるいはリピート時間などにより，組織に与える熱傷の問題が発生する．そのため，術野への水分の補給方法やエア冷却により熱の蓄積をさけ，施術部位への重複照射による組織へのダメージを最小限にする工夫をすることになる．特に，メラニン色素の沈着層症例の場合，その下部の組織へのダメージをさけるため，一回の施術で重複照射を過度に行わないようにすることが注意勧告され，2 あるいは 3 回の施術が必要になる場合がある．しかし，施術回数が増えることは患者の負担が増えることになり，できることなら 1 回の施術でほとんどの除去が可能となることが望ましい．以下の症例にて，患者の要望に合わせた，あるいは，最少回数で施術を試みた．これらの施術方法の基礎的根拠と臨床を関連づけて熱の影響の視点から考察，新たな方法も含めて報告する．

症例：上顎歯肉の色素沈着，慢性および急性歯冠周囲歯肉炎，歯肉膿瘍，HYS，口内炎

主たる使用機器：CO₂ レーザー(Bel-Laser)

インフォームドコンセントにて，患者了解のうえで異なるレーザーもしくは術式にて施術部位を分けて施術し，経過を比較した．

結果および考察：CO₂ レーザーを使用し，SP でかつリピートパルスを 1/1000 から 4/1000 秒の ON 時間と 15W の高出力あるいは，LLLT 効果を期待しピーク出力を抑えたモードを応用し，照射方法に若干の工夫を加えることにより，良好な結果が得られた．また，CO₂ レーザーによる効果が，他のレーザーの効果をカバーする経過も見られた．波長による効果を考慮した使用方法により，効果をあげることが示唆された．

【会場：メロディールーム セレナーデ】

日歯生涯研修コード：3101

P-1

【東京歯科大の窓】

安全な歯科診療のために、画像診断時に有用なポイント

東京歯科大学歯科放射線学講座
後藤多津子

人体を傷つけることなく体内を可視化し、客観的に病気を診断する画像診断学は、近年著しい発展を遂げています。本テーブルクリニックでは、前半は歯科医院で使用されることが多い単純エックス線画像、歯科用 CBCT、CT を中心に、安全な歯科診療のために、画像診断時に有用なポイントについてご紹介いたします。患者さんの生命の危機または重篤な後遺障害を起こす病態として、インプラント埋入時の下顎管の損傷、口底部出血、悪性疾患の見落とし、歯科治療時の誤飲、炎症の波及による窒息の危険、などがありますが、これらの診断や医療事故防止のために画像診断が役立つ場合があります。患者さんのためにも、先生方ご自身のトラブル回避のためにも、各画像診断法の特徴（被曝量、画像解像度と計測誤差、補綴物や根管充填材によるアーティファクト、等）や読影診断時のポイント（再構成画像の作成方向）を、今一度先生方と一緒に確認したいと思います。

後半は、歯科医療に関連する新しい画像診断法や技術の御紹介をいたします。現在、口腔・頭頸部領域に関わる画像診断法は、単純エックス線画像、CT、歯科用 CBCT、MRI、超音波検査、嚥下造影、唾液腺造影、核医学（PET 等）、が様々な疾患の診断に貢献しています。また、病棟や訪問診療のためのポータブルエックス線撮影装置やポータブル超音波診断装置は開発済みです。そして、疼痛や味覚などの目に見えない障害に対する画像診断も開発されてきました。がん放射線治療における生体反応や歯科治療なども含め、参加の皆様からの画像診断に関わるご質問に直接お答えいたします。

【会場：グリーンルーム NORTH】

日歯生涯研修コード：2304

P-2

がん治療と口腔管理

公益社団法人地域医療振興協会
石岡第一病院口腔外科（土浦石岡歯科医師会）
筑波大学臨床教授
萩原敏之

がん医科歯科連携が診療報酬上始まって4年近くが経過した。がん治療病院との連携が円滑に進んでいる地域において、がん主治医が入院前あるいは治療前の周術期口腔機能管理を開業歯科医へ依頼するケースが増加している。その増加に伴い、「がんの治療内容がうまく把握できない」、「全身状態がどの程度の歯科治療に耐えられるのか不安」、「治療期間が限られているためどこまで治療していいのかわからない」、「がん治療中あるいは緩和ケアでの口腔管理はどうしたらいいのか」、「薬剤関連顎骨壊死予防のための口腔チェックはどうするの？」など、先生方からの質問をお受けすることがある。

当テーブルクリニックは、上記のような先生方の疑問点にひとつひとつお応えし、がん治療と口腔管理の要点を習得することを目的として企画した。すべてのがん治療について解説するには時間が限られているため今回は、①外来での治療期間が比較的長い乳がんおよび前立腺がん、②口腔ケアが治療成功のカギとなる頭頸部がんおよび食道がん、③厳密な感染源コントロールが必要で全身状態の把握が難しい悪性血液疾患、を中心に解説する。また、全国共通がん医科歯科連携講習ではそれぞれのエキスパートがお互いの関連性なく解説していて理解しづらいところがあったため、演者の経験に基づいて可能な限り実際にそくしたわかりやすい解説を心がけるつもりである。

【会場：メロディールーム セレナーデ】

日歯生涯研修コード：2402